

11/29

Fri

個人型 和田聖国 (古牧小学校)

共同研究者 新井 仁
(都留文科大学 教授)

子ども自ら概念を獲得していく算数の 授業づくり

算数の学習として、単元の最初に基礎・基本を身につけ、その後いわゆる応用問題を解くことが多いと思います。しかし、本当にそれでよいのかと疑問を感じることもありました。次第に子どもにとって何か解決したいことがあり、その解決に向けて知恵を絞りながらアプローチし、その過程で算数の大事なことを身につけていく授業ができないものかと考えるようになりました。数学的モデル化過程を含む問題解決において、身につけている数学を使って、新たな「道具」を作って解決する学習を「概念学習型」と呼ぶことがあります。子どもが既習の内容を使って問題解決に挑みながら、新たな数学的概念を獲得していく学びも、広い意味で概念学習型だと思います。そして、計算技能の習得に偏りがちな小学校低学年の算数の授業でも、このような授業は子どもにとって重要な意味をもつものと思います。今回、このような授業づくりに挑み、これまでの私の授業の殻を破りたいと願い、信教全県大会で授業公開させていただくことにしました。

共同研究者の都留文科大学の新井仁先生は、子どもが問題を解決した過程を振り返ったり、他者の解決過程と比較したりすることで批判的思考が誘発されることによって、数学の豊かで深い学びが可能になることを、これまでの研究で述べられています。本研究でも、子ども自らが数学的概念を獲得していく算数の授業づくりを目指して取り組みます。小学校低学年で、中には自分の考えを上手く書いたり話したりすることができない子どもいます。「前の授業を振り返ってみて」と伝えると「前、なにしたかな…」と首をかしげる子どもいます。そういった発達段階の子どもですから、まずは自分の考えを自分なりに書いてみることを、そしてその考えを振り返ってみることを、日頃から大切に授業を行いながら、日々成長する姿を見守っているところです。

小学校低学年の子どもたちが素朴に解決したいと願う問題と出会い、信濃教育会が示すベースとなる授業観である『子ども自らが、心ゆくまで探究する』授業のように心ゆくまで探究した先に、新たな数学的概念と出会う授業になることを目指し、実践発表させていただきます。



共同研究者 新井先生から

小学校低学年は、「遊び」から「学び」へ移行する時期でもあります。児童が興味・関心をもって取り組み、考えることを楽しみながら、次第に算数の本質に迫る授業を目指したいと願います。算数の授業における数学的活動とは何か、具体的な授業を窓口と考えてみたいと思います。



～日程～

- | | |
|-----------|-------------|
| ① 受付 | 13:15～13:35 |
| ② 開会行事 | 13:40～13:50 |
| ③ 授業 | 13:55～14:40 |
| ④ 授業研究会 | 15:00～15:50 |
| ⑤ 共同研究者指導 | 15:50～16:20 |
| ⑥ 閉会行事 | 16:20～16:30 |